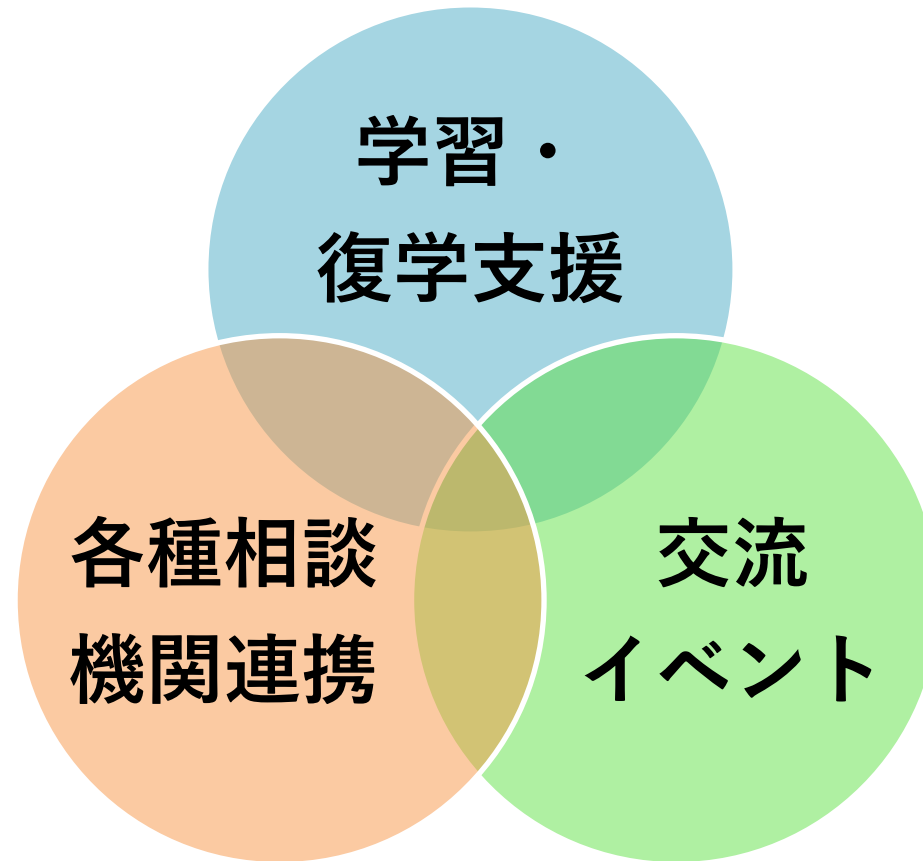


病気を抱える子どもたちの学習・復学・自立を支援する

認定NPO法人ポケットサポート

病気を抱える子どもたちが将来へ希望をもって自分らしく暮らせる社会



認定特定非営利活動法人

ポケットサポート

Mission(私たちが社会で果たすべき使命)



『環境をつくる』

病気を抱えていても子どもらしい時間が過ごせるように
学習支援・復学支援・自立支援ができる環境をつくる

『生きる力を育む』

病気による困難を抱えていても前向きに生きていけるよう
当事者や専門家と共に子どもや家族の「生きる力」を育む

『人や気持ちを繋ぐ』

病気の子どもに関わる人を繋ぐコーディネートを行うと
共に社会への理解啓発を行い理解者・支援者を増やしていく



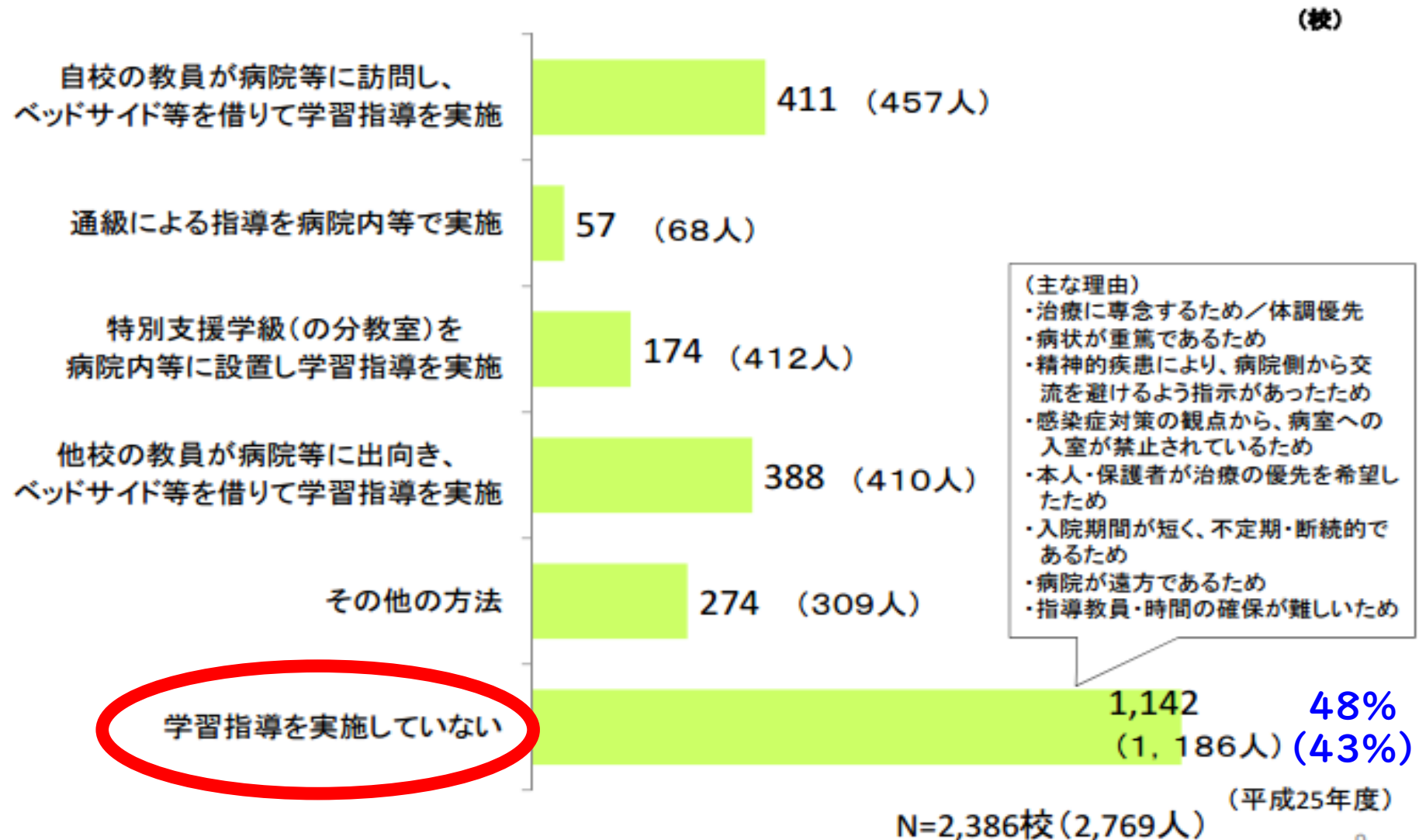
認定特定非営利活動法人

ポケットサポート


小・中学校 (国立・公立・私立 合計)

3 病気やけがにより、延べ30課業日以上入院した児童生徒への対応

①学習指導(授業)の方法



教育行政との連携：「長期療養児教育サポート相談窓口」

長期療養の学習の悩みに電話対応（2018/6/8） 山陽新聞 

窓口は県教委特別支援教育課内に「長期療養児教育サポート相談窓口」として設置。職員5人体制で、欠席中の勉強への不安などを抱える保護者からの相談に応じるほか、入院中や復学時の対応に悩む教員に対して具体的な事例などを紹介する。県内の特別支援学校や院内学級とも情報共有し、継続的な支援も探っていく。

小児がんの子どもの復学支援を研究する就実大の森口清美准教授、**病気の子どもの学習支援などに取り組むNPO法人ポケットサポート**（岡山市）の三好祐也代表理事が、県特別支援教育専門家チームのメンバーとなり助言も行う。

特別支援教育課は「**周囲の大人はどうしても病気を治すことだけに目を向けがちだが、子どもにとっては勉強の遅れや復学後に友達と仲良くできるかといった不安を抱えている。窓口を通じ支援の輪を広げていきたい**」としている。

長期療養児教育サポート相談窓口：086-226-7912



認定特定非営利活動法人

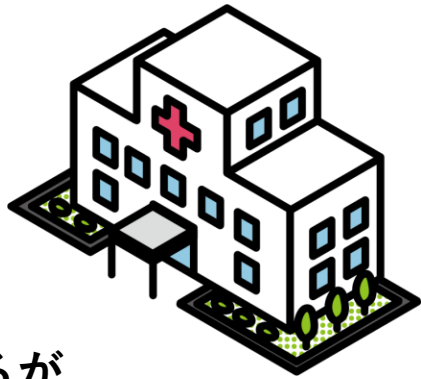
ポケットサポート

連携事例：コロナ禍前の、高校生遠隔授業サポート

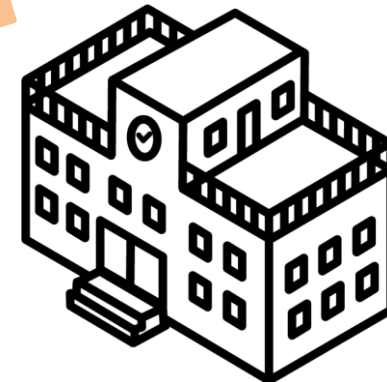
「同級生と一緒に
進級がしたい」



打ち合わせ、病院－学校間の通信テスト
治療のスケジュールなど学校側との調整



病院が学校へ相談するが
遠隔授業のノウハウがない



遠隔授業が
出席単位と
認められて
無事進級を
果たしました！

「長期療養児教育サポート相談窓口」へ相談
教育委員会、ポケットサポートが病院にて
ヒアリング後、全体の技術面と調整役として協働



認定特定非営利活動法人

ポケットサポート

保健医療行政との連携：事業化に至る背景

市の小児慢性疾患児童等のニーズから

H27岡山市保健所ニーズ調査・H29協働事業調査、定期的な話し合いから

- ◆自立支援事業「ピアカウンセリング」「レスパイト」
利用希望上位「学習支援」「患者家族会の参加」
- ◆入院中・療養中でも学校など外の社会との
「つながり」を継続することは重要
- ◆入院中・療養中の孤立感と無力感を
「交流支援」「学習支援」によって軽減
- ◆「学ぶ」行為が「治療意欲」にも繋がることを確認できた

- 支援員の重視した点＝「ピア」であるか
- 子どもや家族は孤立感から「交流」を求めている
- 長期療養の中で学習への困り感があった

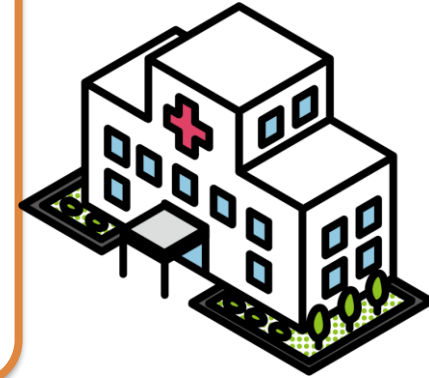


認定特定非営利活動法人

ポケットサポート

岡山県・岡山市小児慢性特定疾病児童等自立交流支援事業

- ・ 支援員「幼少期に慢性疾患による長期療養経験のある者」
- ・ ピアによる学習支援を含めた交流支援4カ所
- ・ （内1カ所は、院内学級を有しない総合病院）
- ・ 定期的な話し合いと、支援の担い手の育成プログラムの作成と実施
- ・ 支援者、理解者を増やす事業展開（研修会、講演会等）



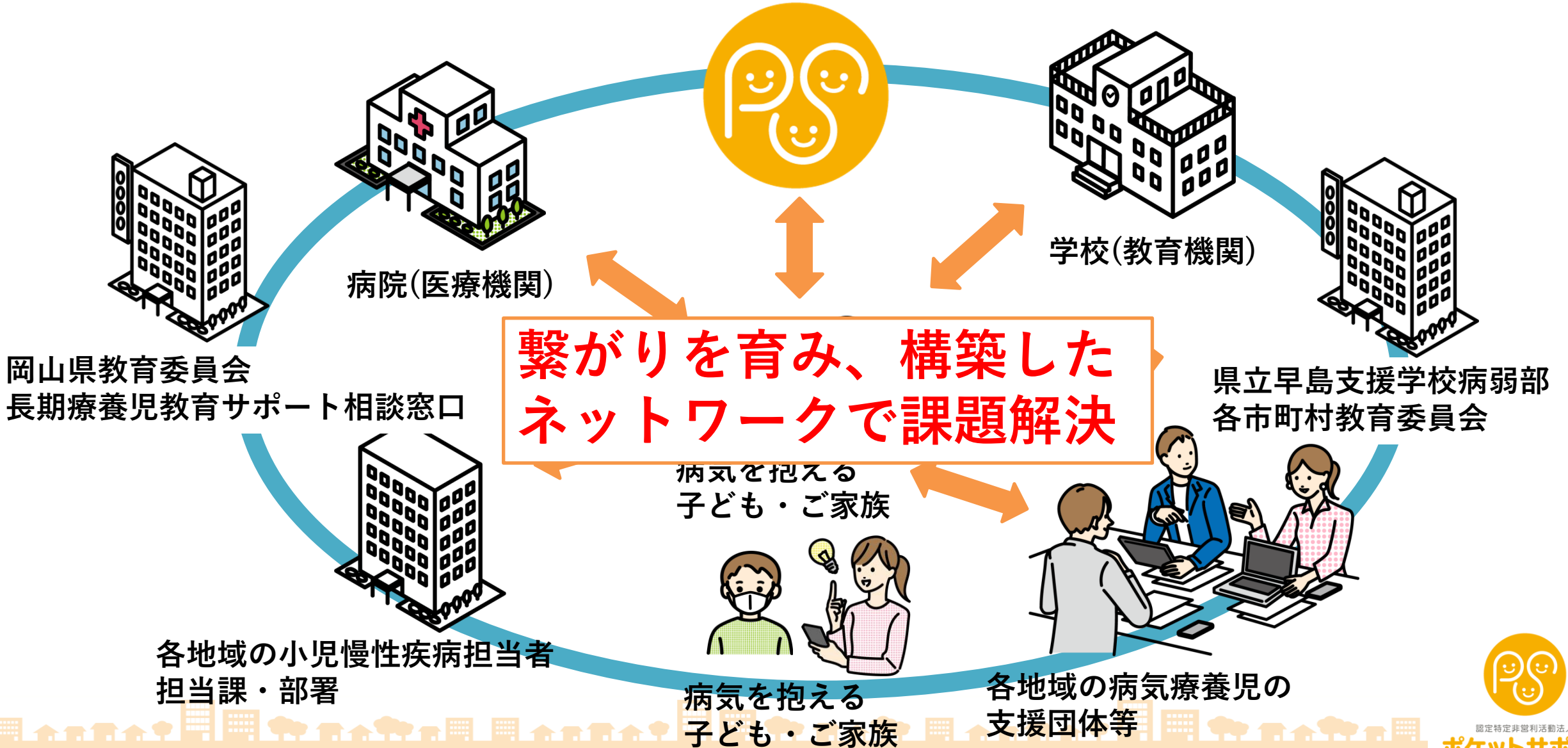
支援対象者同士や支援員・ボランティアとの交流
→ 体験・学習空白を補う相談や支援活動
医療機関内での活動では、看護師・病棟保育士らと
連携により実施している



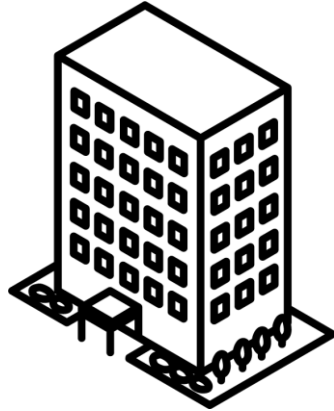
医療機関への調査協力から地域の課題として認識してもらう
→ 院内学級を有しない医療機関での交流支援開始
＝ 医療機関・行政と民間の連携による協働



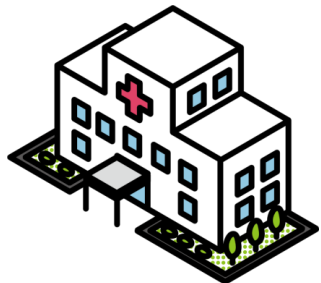
「繋がり」で、子どもたちの病気による社会的障壁を解決していきたい



連携事例：自宅療養中や院内学級在籍中に オンラインで地元校と授業や交流がしたい



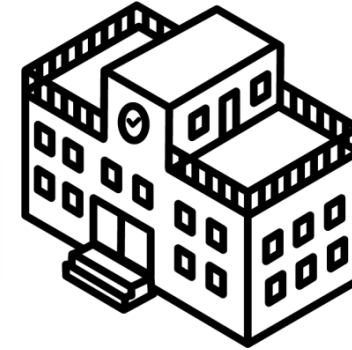
自宅療養中や治療入院中に授業や
行事にオンラインで参加したい



学習支援や交流支援に
ついて何ができるか相談



遠隔授業のサポートに専門家として
ポケットサポートが学校へ派遣



学校・病院・行政・NPOが
協働して、繰り返す入退院
中も学校の授業や行事に
状況に応じた形で参加が
できるように！



今後の支援について医療機関・学校
NPOによる合同カンファレンス



認定特定非営利活動法人

ポケットサポート

事例集・サポートブックなどはHPから無料DLできます



多職種が連携して取り組んだ実践事例を集約し紹介するための冊子及び、説明動画を
ベネッセこども基金の助成を受けて作成

岡山県内全ての学校、全国の関係機関
(各所の小児慢性疾患担当部署、小児がん拠点病院
全国の都道府県教育委員会など)へ配布
電子ブックとして無料公開も行っています

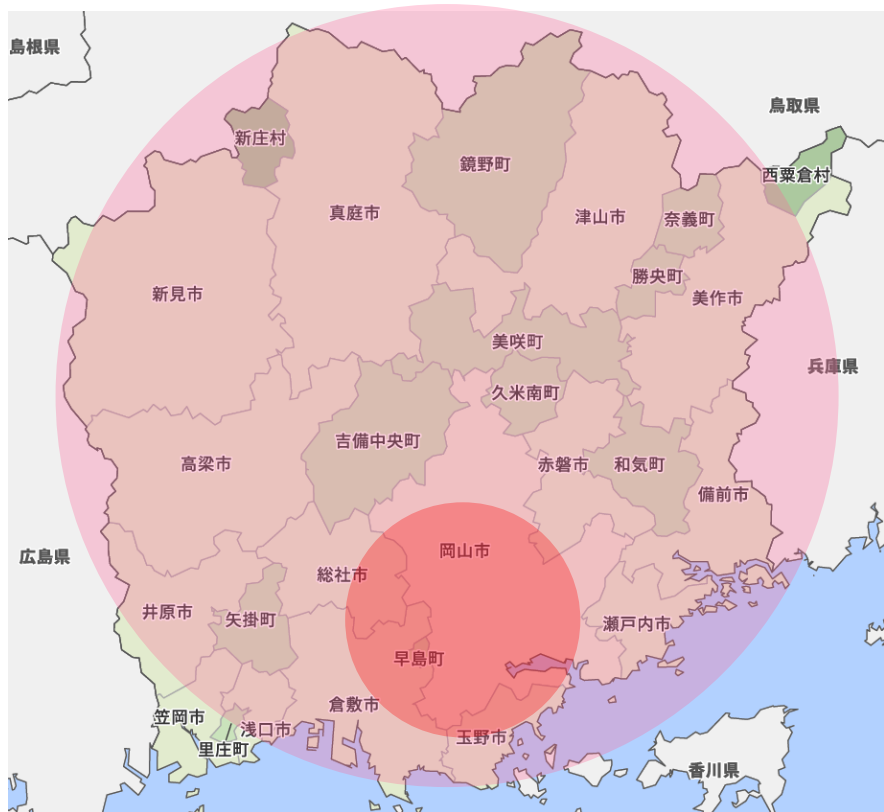


YouTubeで
支援事例の解説も
しています！



今後の展望：岡山県全域に個別相談や交流支援を広げる

岡山県全域を支援エリアに広げていく



小児慢性疾病の子どもたちの相談を岡山県全域のみならず、県外からの問い合わせにも柔軟に対応することで、年間ベース100件の支援に対応できるように体制整備をしていきたい

そのために必要となるのが

- 新しい支援拠点の整備
- 相談支援員の確保
- 活動資金の確保



助成金や補助金だけでは補えない部分を全国の皆様からの寄付金で運営しています



ベネッセこども基金と実施している事業

事業の背景

コロナ禍を経て、当団体へ全国各地の病気療養児やご家族から相談が寄せられるようになってきた。ポケサポがハブとなって近隣の団体へ繋ぎ、課題解決されるケースも出てきた。

ポケサポが主催する、県内の「多職種連携ネットワーク会議」で、持ち寄ったケースを話し合い、特別支援学校(病弱部)や委託元の行政(小慢自立支援事業)でも相談内容に悩みを抱えている場面があり、病気療養児へ違う立場で関わる専門職が業種を超えて話し合うことで解決に向かうこともあった。



「病気療養児支援者全国ネットワーク(仮)」を作りたい

- 各団体のノウハウや事例を横展開で全国へ広げる
- 支援者同士が相談できるコミュニティとして地方ブロックごとに関係支援団体をリスト化
- 定期的にオンライン交流会や事例紹介などの機会を設定して意見交換
- 全国の小児慢性疾病担当窓口や小児がん拠点病院等に広報活動を実施



小児慢性特定疾病児童等自立支援事業で
全国に配置されている「自立支援員」との連携も視野に進めていきたい



**「病気だから仕方ない」と
諦めてきた時代は終わりにしたいです。**

**大人が繋がって動けば、子どもたちの未来は
変わると信じています。**

**私たち、ポケットサポートも
未来の希望をつなぐチームに入れてください**